

# 令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 都立八王子特別支援学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹(教務主任兼務)=事務局長、副校長1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長2名、経営企画課長、主幹6名 計10名
- (4) 協議委員の構成  
学識経験者、市内高等学校長、福祉施設長、職業安定所職業指導官、知的障害児通園施設長、市健康福祉部障害者福祉課長、近隣町会長、PTA会長、企業関係者、子ども家庭支援センター職員 計12名

## 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和元年6月27日（木）内部委員 10名、協議委員10名  
委員委嘱、委員紹介、学校経営計画について、今年度の重点取り組みについて、授業見学「作業学習」、意見交換
  - 第2回 令和元年10月15日（火）内部委員9名 協議委員6名  
学校評価アンケートの検討、授業見学、意見交換
  - 第3回 令和2年2月14日（金）内部委員7名 協議委員7名  
本校研究活動について、八王子西特別支援学校について、学校係に基づく今年度の学校改善に関する取組について
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和元年6月27日（木） 内部委員2名、評価委員4名  
昨年度の学校評価の確認、今年度のアンケートの検討、学校運営連絡協議会の年間計画、アンケート実施手順の確認
  - 第2回 令和元年10月15日（火） 内部委員2名 評価委員2名  
事務局が提案したアンケート案の検討、今後の予定の確認
  - 第3回 令和2年2月14日（金） 内部委員2名 評価委員4名  
評価結果に基づく具体的な学校改善計画の検討、次年度に向けた方向性の確認

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
学校が校長の学校経営計画に基づき、組織として良好に存続していくための、自主的な検証・改善を図るために、保護者、学校近隣の地域住民、卒業生等からの外部評価を積極的に受け止める。外部評価をとおして、学校の組織的な活動を中心に現状と課題について明らかにし、継続的な学校経営改善を実現するとともに、次年度の学校経営計画の策定に生かす。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模  
11月 保護者（363人 施設児童・生徒を除く）、地域（60人）、在校生徒（216人）、教職員152名
- (3) 主な評価項目  
教育計画について、キャリア教育について、ロールモデルについて、働き方改革について
- (4) 評価結果の概要及び本校での課題
  - ①回収率及びアンケートについて※全校児童・生徒数は433名だが、施設生を除いた実数396名として計算

	保護者 349/363※ 96%			教職員	地域	在校生徒	
	小	中	高		台町三丁目 上野町三丁目	210/216 97%	中学部 高等部
人数	138/138	76/79	135/146	152/152	32/60	34/34	148/159
回収率	100%	96%	92%	100%	54%	100%	93%

- 保護者からの回収率の推移（30年度84%、29年度84%、28年度86% 27年度81% 26年度85%、25年度90%、24年度94%、23年度91%、22年度91%、21年度80%）

### ②結果の概要

- 1) 保護者について
  - ◇ 保護者の肯定的評価が低かった項目については以下の通りである。
    - 【質問項目3】系統性のあるキャリア教育や学部間の接続について
  - ◇ 上記以外の質問項目については、80%以上の肯定的評価をいただいた。
- 2) 地域住民について
  - ◇ 判断できないと回答している方が多かった質問項目については、肯定的評価が低いが、それ以外の質問項目については、肯定的評価が80%以上であった。
- 3) 在校生について
  - ◇ ほぼすべての質問項目について、肯定的評価が85%以上であった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- ▶ アンケート項目を絞ったことで、回収率の改善につなげることができた。アンケート項目の妥当性については、検討が必要である。また、回収したアンケートの結果をどのように還元していくのかについても明らかにし、丁寧に対応する必要があることが分かった。

5 学校運営連絡協議会の成果と課題及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ▶ 最終的な回収率は、昨年度に比べ、10ポイント以上、高い値となった。回収当初は、昨年度を下回る回収率となり、全校に向けて複数回、アンケート回収の呼びかけを行った。「回収率 100%にする」と教員への意識向上が図れたことで、保護者の理解を得ることができ、高い回収率へとつなげることができた。次年度は、「回収率 100%」を達成目標として、教員の意識を高め、アンケート実施当初より取り組めるようにする。
- ▶ 教育計画に関しては、各学部ともおおむね肯定的な評価を受けている。高等部が教員・保護者とも、他の学部と比べると、全体的に肯定的評価が低い数値になっている。引き続き、教職員の研究活動や研修等を通して、専門性を高めていく。【保護者アンケート項目 1・2 より】
- ▶ キャリア教育に関しては、各学部とも肯定的な評価は6~7割となった。特に小学部では、保護者の25%が「分からない」との回答だった。系統性のあるキャリア教育、学部間の接続など、つながりのある教育の理解が十分でないことが考えられるため、更なる学部間のつながりを見越した action plan4-4-4 の理解・充実が必要と考える。八王子西特別支援学校の開校後、全校保護者会、学部保護者会等で説明を行う。【保護者アンケート項目 3 より】
- ▶ ロールモデルに関しては、保護者の自由意見から、他学部の教員についての評価をしていることもあり、純粋に保護者が当該学部の教員を評価しているとも言いきれない結果となった。また自由意見からは、日常の挨拶、呼名、服装や電話対応時のマナー等に対して、改善すべき御指摘をいただいた。児童生徒のロールモデルとなる教職員として、適切な振る舞い方の研修を行い、マナー向上に努めていく必要がある。【保護者アンケート項目 4 より】

5 協議委員のアンケート集計結果（回収：6）

「今年度の学校評価において、「学校が変わったか」について」

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	2	1				

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・なし

7 その他

- ・なし